



締結した5団体とともに市一体となったまちづくりが始まる

地区センター指定管理者制度導入に伴う基本協定締結式が1月18日、江刺総合支所大会議室で行われました。

新たに水沢、黒石、岩谷堂、梁川、古城の各地区振興会などと指定管理に関する基本協定を締結したことで、平成30年4月から市内全ての地区センターが指定管理者制度に移行することになります。

小沢市長は「協働まちづくり部を中心に地域の課題解決に向けたサポートを充実させる。特徴と個性を伸ばし、元氣あふれる地域を目指してほしい」と激励しました。

【全ての地区センターが指定管理者制度に】



一糸乱れぬ隊列での分列行進

市消防出初式が1月8日、市文化会館（Zホール）を主会場に行われました。小原勝喜団長を先頭に、数百メートルに及ぶ分列行進を行ったほか、纏振りが披露され火消しの意気を示しました。

統監の小沢市長は式典で「ふるさとの守り手として、日ごろの予防活動や消防活動に敬意を表す。大雨による被害が多かった昨年、釜石では大規模林野火災が起こり、改めて防災体制の強化の必要を感じた。市民が安全で安心なまちづくりに努めていく」と決意を述べました。

【安全で安心なまちを新年の儀式に誓う】



「金色の風」を味わう5年2組の児童たち

市は、「金色の風」のPRと地産地消推進のため、市内小中学校の給食に「金色の風」を提供しました。提供初日となる1月25日には、生産者および関係者と前沢小学校5年生の交流会を同校で開催しました。

交流会では、生産者を代表してJA岩手ふるさと「金色の風」栽培研究会の鈴木哲也会長が「金色の光輝く米ができた。おいしいと思ってもらえたらうれしい」とあいさつ。児童と参加者は一緒に給食を食べ、金色の風を味わい、食味などの感想を共有して交流を深めました。

【市内産米「金色の風」おいしさをPR】



消防署員と消防団員が連携を確認しながら実施（水沢区会場）

貴重な文化財を守るための消防訓練を、1月21日と28日に江刺区稲瀬の千葉家住宅主屋と水沢区大畑小路の旧高橋家住宅で実施しました。この訓練は、1月26日の「文化財防火デー」に合わせて市内の文化財を対象に毎年行っているものです。

28日は旧高橋家住宅が会場となり、水沢消防署と地元消防団員、市教育委員会、武家住宅資料館職員などが参加。職員による119番通報や初期消火、消防関係者による指揮本部設置、放水訓練などを実施し、参加者は火災への意識を新たにしました。

【地域の宝を火災から守るために】

おうしゅう こんなにあった！奥州の宝
奥州お宝かるた大会



かるた取りに挑戦する子どもたち

市協働のまちづくりアカデミー第4期3班（リーダー中村幸成）が手掛けた「奥州お宝かるた」が完成しました。1月12日に古城地区センターで開催された「新春ふれあい広場」で地元子どもなどに披露され、かるた大会も行われました。本市が誇る自然や名所、伝統工芸品、農作物、祭りなどの地域の魅力を伝え、かるたを通じて地元愛の育成を目指します。題材と絵は各地区センターや市民から寄せられ、かるたは市内30地区センターと図書館に寄贈されます。

かるた大会に参加した前沢小3年の千田玄大君は「少し緊張したけれど、とても楽しかった。牛の博物館など前沢のことも出てきてうれしかったし、勉強になった」と笑顔で話しました。

えさし 裸と炎に地域の繁栄を見る
伊手熊野神社蘇民祭

伊手熊野神社蘇民祭が1月20日夜から翌未明にかけて、同神社で行われました。水沢の黒石寺の蘇民祭を手本に始められたといわれる同祭りは、400年以上の歴史を持つ伝統の祭り。歳戸木の上で氣勢を上げる火たき登りや蘇民袋争奪戦などで、荒ぶる男衆の勇ましさが闇の中に照らし出されました。

小さな子どもから大人まで、多数が来場。詰めかけた観衆は蘇民袋からまかれたお守りの小間木を手にし、地域の繁栄を願いました。



10分以上も煙を浴び続ける猛者もいた「火たき登り」



水沢保育園年長児ゆり組が日本舞踊を披露しオープニングを飾った

おうしゅう 伝統の継承を示すステージ
こども芸術発表会

こども芸術発表会（市文化遺産活用実行委員会、市芸術文化協会主催）が1月13日、市文化会館（Zホール）で開催されました。第1部では神楽や歴史講談の舞台発表が、第2部ではおうしゅう伝統文化親子教室の発表会として日本舞踊や琴の演奏などが披露されました。

発表のたびに出演者へのインタビューが行われ、代表してステージに現れた子どもたちが「楽しかった」「これからも続けたい」などと答える様子から、楽しみながら伝統文化が継承されていることがうかがえました。